

1 陸技・無線工学B【アンテナと電波伝搬】完全マスター(2011年4月11日第3版発行)

本書におきまして、次のとおり誤りがありました。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

頁	行	誤	正
18	上段 上から 7行目 より 数式 (1.3) を含む	<p>の閉曲面から出ていく電気力線の総和は、閉曲面内にある全電荷の$1/\epsilon$(ϵ : 誘電率) 倍に等しい」を平面Sに適用すると、次式が得られる。</p> $Q = \epsilon\phi = \int_S \epsilon E_n ds = \int_S D_n ds$ <p>ただし、E_n と D_n はそれぞれ電界と電気変位(電束密度)D [C/m^2]の微小面積 ds の法線方向成分である。すなわち、$\epsilon\phi$ または Q、は、ϵE または D が面積 S を貫く総和に等しい。</p>	<p>の閉曲面から出ていく電気力線の総和 N は、閉曲面内にある全電荷の$1/\epsilon$(ϵ : 誘電率) 倍に等しい」を平面Sに適用すると、次式が得られる。</p> $Q = \phi = \epsilon N = \int_S \epsilon E_n ds = \int_S D_n ds$ <p>ただし、E_n と D_n はそれぞれ電界と電気変位(電束密度)D [C/m^2]の微小面積 ds の法線方向成分である。すなわち、ϕ または Q、は、ϵE または D が面積 S を貫く総和に等しい。</p>
187	練習 問題 I 選択肢	$1 \quad h = \frac{\lambda}{2\sqrt{2\pi}} \text{ [m]}$	$1 \quad h = \frac{\lambda}{2\sqrt{2}\pi} \text{ [m]}$
205	下から 9行目	鋭い。利得を上げるためには、同図(b)のように、この双ループアンテナを縦方向に複数個 従属 接続して使う。	鋭い。利得を上げるためには、同図(b)のように、この双ループアンテナを縦方向に複数個 縦続 接続して使う。
213	上から 1行目	反射器(refractor)という。	反射器(reflector)という。
304	上から 6行目	見通し距離以内では、式(18.6)において、距離 D のみを変化させたときの電界強度であるから、図18.9のように距離とともに振動する。	見通し距離以内では、式(18.6)において、距離 d のみを変化させたときの電界強度であるから、図18.9のように距離とともに振動する。
327	上から 2行目	う。図19.7は大気分布の変動を K の変動として描いた電波通路であり、同図(a)は地球等価半径係数が K_1 と K_2 のときの大地反射波の通路である。	う。図19.7は大気分布の変動を K の変動として描いた電波通路であり、同図(a)は地球等価半径係数が $K_1 < K_2$ のときの大地反射波の通路である。